

平成23年 2011年 5月

公立豊岡病院組合広報紙 第38号

△ ほすぴたる

組合立病院 ◇ 豊岡病院 ◇ 日高医療センター ◇ 出石医療センター ◇ 梁瀬医療センター ◇ 和田山医療センター

Contents

病院紹介：日高医療センター
梁瀬・和田山医療センター連携検討会議報告など

医療相談

病院 紹介

公立豊岡病院組合立 豊岡病院日高医療センター

専門的センター機能と やさしい療養空間の提供

DATA

公立豊岡病院日高医療センター

住所：豊岡市日高町岩中81

電話：0796-42-1611

受付時間：午前診療 7:30～11:00

午後診療 7:30～14:00

診療科目：内科、外科、産婦人科、
新生児科、眼科、整形外科、
皮膚科、痛みの外来

病床数：150床(一般110床、療養40床)

<http://www.toyookahp-kumiai.or.jp/hidaka/>



▲ 併設している健診センター



▲ 日高医療センターの正面外観

三つのセンターと 特色ある医療

日高医療センターは、豊岡市の南部に位置し、旧日高町の中心地、江原駅の南西にあります。

小規模ですが、眼科、透視、健診と、それぞれ専門的なセンター機能を併設し、慢性期を受け持つ療養病床から急性期産科医療まで、幅広く特色のある医療を提供しております。

また、旧日高町での検診事業の伝統を引き継ぎ、生活習慣病への取り組みを、運動療法を含めた日常診療、各種教室の開催、更には学会活動への参加を通じて行っております。

今後とも特色を生かした医療サービスを提供してまいります。



三木病院長



倉員眼科センター長

◀ 平成19年9月、ここ日高で眼科センターを開設して以来、但馬及び京都府北部の地域眼科医療の中心として、地域の開業医の先生と一体となって地域の皆様の眼の健康に尽力して参りました。

医療崩壊が叫ばれて久しいですが、当眼科センターの取り組みは、医療確保のモデルケースたりうるものと自負しています。



眼科センター

◀ 病院内の1診療科としての活動に留まることなく、夜間の眼科電話相談、他医療機関との連携・応援、住民啓発なども実施しています。

県下有数の症例数を有し、硝子体や緑内障をはじめとする手術はトップレベルにあります。



助産師外来

◀ 正常な妊娠経過をたどっている妊婦さんを対象に助産師が妊婦健診や保健指導を行う助産師外来を行っています（完全予約制）。

助産師が積極的に妊産婦さんと関わることで、安心したお産や育児へつなげることが期待できます。

産後の乳房マッサージや育児指導も行っています。



透析センター

▲ 昭和52年、但馬地方で初の透析施設として開設。但馬最大規模の施設として地域での透析医療の確保と、より良い血液浄化療法の提供を目指しています。



福永産婦人科部長

◀ 正常分娩を中心としたお産を二人の医師で担い、分娩件数は年間約360件にのびります。

ラマーズ法（心身の緊張を除いての自然分娩によるお産）を取り入れ、夫の立

ち会い分娩も実施、妊婦さんに喜ばれています。子宮がん検診、更年期の方も相談に来られます。



療養病床

▲ 療養病床では、慢性疾患等の症状は安定してきているが、継続して療養の必要な患者さまを対象としております。日常生活に必要なリハビリテーション等を中心に療養をして頂き、1日でも早い健康の回復と在宅療養・社会復帰を目指しております。



健診センター

▲ 組合立病院の中で唯一独立した健診センター施設を有しており、一般患者さんと分離されたゆったりとした環境で、人間ドックなどをご利用いただけます。

梁瀬・和田山医療センター連携検討会議報告

二月二日、梁瀬・和田山医療センター連携検討会議（会長 後藤武・兵庫県健康財団理事長）から朝来市域にある梁瀬・和田山の両医療センターの連携方策や将来に向けた方向性について検討した「報告書」が病院組合管理者（青木俊彦）に提出されましたので、その概要をお知らせします。



一 両医療センターの現状

○梁瀬医療センター

常勤医師三名（内科一、外科二）病床数五〇床で設備は比較的新しい。

入院外来共に山東地区の患者が大半を占めており、救急については、かかりつけ患者のうち急変の可能性のある患者については対応している。

○和田山医療センター

常勤医師六名（内科二、整形外科四）病床数一五〇床で設備の老朽化が進んでいる。
入院外来共に和田山地区で四割を占めるが他の地域からも広く患者を集めている。救急については、当直

する医師の診療科や受け入れ時間による制限をしている。
なお、両医療センター共に、赤字経営が恒常化している。

二 朝来市域の医療の現状及び朝来市域で担うべき医療

①朝来市域の医療の現状

民間医療機関により内科、小児科、消化器科を中心に幅広い診療が提供されている。

南但休日診療所は、日曜、盆、年末年始の昼間の一次救急（帰宅可能患者に対する医療）を提供している。救急車による市内医療機関への搬送率は約二七％となっている。

朝来市民の両医療センターへの受

診状況は、入院で約四七％、外来で約五〇％である。

②朝来市域で担うべき医療

○兵庫県の保健医療計画の考え方

・一次保健医療圏は、生活に密着した保健医療の提供を図る圏域であり、市町を区域と定めている。

・二次保健医療圏は、入院医療の提供を図る圏域であり、但馬全域を区域と定めている。

・一次救急医療圏は、一次救急に対応する医療機関を確保するための圏域で、市町を区域と定めている。

・二次救急医療圏は、二次救急（入院を要する患者に対する医療）に対応し、一次救急医療機関の後送先となる病院を確保する圏域で、朝来市は西南但馬に

属すると定めている。

○各医療機関で担うべき医療

・開業医（かかりつけ医）
一次医療（軽度なげがや病気）及び平日昼間の一次救急を担う。

・南但休日診療所
平日夜間及び休日の一次救急を担う。

・両医療センター
入院医療については、内科、外科、整形外科、療養をできる限り担う。その他の専門性の高い診療科については、但馬全域で提供する。

外来医療については、専門性のある診療科や入院に直結する診療科を担う。
二次救急については、八鹿病院との連携と役割分担により、

ある程度までの二次救急を担う。

三 両医療センターで担うべき医療の現状と連携方策

① 両医療センターで担うべき医療の現状

○入院医療

朝来市民の両医療センターへの入院割合は約四七%となっており、過半数が市外の病院へ入院している。両医療センターには空き病床はあるものの、医師や看護師の不足から、入院のニーズに対応した病床の提供が十分に行えていない。

○外来医療

梁瀬医療センターの外来診療科は、内科及び外科であり、どちらも入院に直結する診療科となっている。

和田山医療センターの外来診療科は、入院に直結する内科及び整形外科を常勤医が提供しており、専門性のある診療科（循環器等）については出張診療により提供している。

○二次救急医療

救急体制や救急車の市内搬送率

から、両医療センターにより担うべき二次救急医療は十分には提供できているとは言えない状況である。

② 連携の方策

○連携の現状

両医療センターの定期的な連携は、医師による検診の応援が週二回、理学療法士によるリハビリの応援が週一回となっている。不定期の連携は、医師による治療上のアドバイスや急変時のバックアップを行っている。

○新たな連携方策

両医療センター共に医師数が少ない中で医療の提供を行っており、現状の医師数では、医師の移動による医療の連携には限界がある。

新たな医師の確保による連携の充実は、近年の但馬地域での医師確保が困難さを増しており、早急な解決は困難である。

連携は余裕のある部分を融通し合うことよって機能するが、両医療センターの現状を考慮すると、連携によって朝来市域で必要とされる医療を提供することには限界がある。

四 今後の方向性

両医療センターにより朝来市域で担うべき医療を提供するためには、今ある医療資源を最大限活用することが最も現実的な方策であり、連携或いは一体的運用の究極の姿として、両医療センターの統合がある。

① 統合のメリットとデメリット

○メリット

- ・一つの病院に診療科目が統合され診療機能が充実するため、患者の利便性が向上する。
- ・職員が集約されるため、効率的な人員配置が可能となる。
- ・費用が削減され、経営的にプラスに働く。

○デメリット

- ・統合により、従来近くで診療を受けていた患者が遠くなり、不便を感じる。

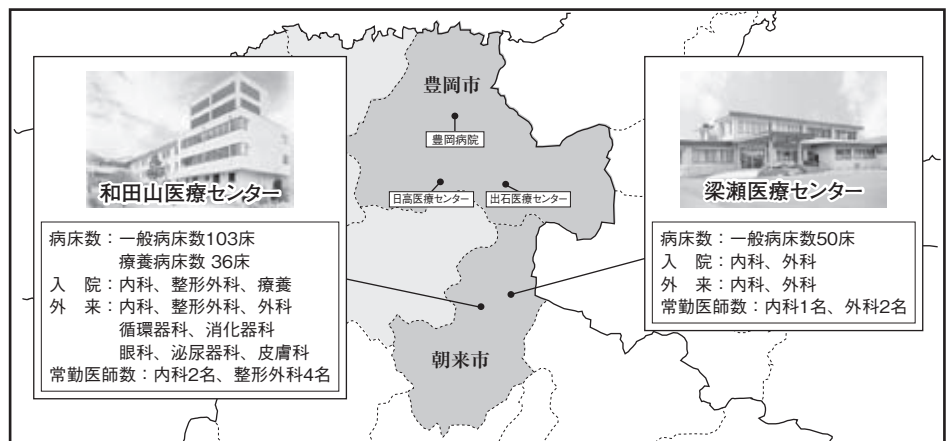
② 診療機能

○入院

- ・現在の両医療センターの診療科を引き継ぎ、朝来市民の入院の

○外来

- ・現在の両医療センターの診療科を引き継ぎ、かかりつけ患者（往診等）への対応も行う。



○救急医療

・八鹿病院との連携と分担を図り、二次救急のある程度までの対応を行う。

○その他の診療機能

・透析、回復リハビリ、緩和ケア等については、将来の患者の動向等を踏まえて検討する。

③病院の規模

・病床数は一五〇床〜二〇〇床程度とし、具体的な診療機能や医師数等を勘案して決定する。

④新病院予定地

新病院は朝来市域で唯一の病院であることから、最低限、次の条件に合致した場所に建設すべきである。

○必要な敷地面積の確保

病院規模（一五〇床〜二〇〇床）に応じた面積（一万四千㎡〜一万七千㎡程度）が確保できること。

○交通の利便性

・鉄道、バス等の公共交通機関の利用が容易なこと。
・救急車の進入が容易な幹線道路に隣接していること。

・朝来市の四地域（和田山、山東、朝来、生野）からのアクセスが良いこと。

○災害への対応

・冠水、地滑り、土石流等の自然災害の危険が少ない場所である

こと。
・病院へのアクセス道路が複数確保されていること。（病院が孤立しないこと。）

⑤財政的な検討

新病院の建設に際し、活用できる財源として

・「病院事業債」（病院組合が発行する建物や医療機器の整備の資金調達のため発行する地方債）

・「合併特例債」（構成市が発行する市町村合併に伴って特に必要とされる事業に対して発行できる有利な地方債）

・「過疎債」（構成市が発行する過疎地域で事業を行う際に発行できる有利な地方債）

などが考えられる。財源は、できるだけ有利なものを活用することが望ましいが、構成市との十分な協議が必要である。

五 総括

朝来市域では、二つの医療センターを連携或いは一体的運用することにより医療の確保を目指してきたが、両医療センターの現状を考慮

すると、機能を集約することが現時点で最も有効な手段であると考えられる。

朝来市民にとって、必要とされる全ての医療サービスが提供されることが望ましいが、但馬地域の基幹病院である豊岡病院や南但の中心的病院である八鹿病院との連携や機能分担を図り、朝来市域の公立病院として必要な診療機能を提供すべきである。

機能の集約に当たっては、どちらかの医療センターへの集約も理論上あり得るが、敷地面積や地理的な位置等の問題があり、朝来市域全体の医療の確保の観点から、新しい場所に新しい病院を建設することが合理的である。

朝来市域の医療を確保する上で病院だけでは解決できない課題もあり、行政（朝来市）や医師会（開業医）の担う役割も大きい。病院と医師会により一層の協力関係を進め、両者の協同による救急医療体制の構築や病診連携のシステム化を検討するなど朝来市域全体の医療確保を図るといふ視点も必要である。

新病院の建設に当たっては、行政及び医師会とも十分協議を行い、諸課題を解決され、早期に両医療センターを統合した新病院の建設へ向けての一步を踏み出されることを期待する。

なお、この件に関する詳しい内容は、ホームページの他、各医療センターにも報告書がありますので、各医療センター管理課までお問い合わせください。

東日本大震災により被災された皆様に対し、心よりお見舞い申し上げます。

東日本大震災救援へ豊岡病院の災害医療チームが出動

○災害医療チーム活動報告

災害医療支援のため、豊岡病院から災害医療チームを派遣しました。

第1班：ドクターヘリで出動し、仙台市の陸上自衛隊霞目駐屯地を拠点に災害直後の患者搬送を中心に活動（DMAT活動）
 ・医師2名、看護師2名
 ・期間 2011.3.12～2011.3.13



第2班：救急車で出動し、石巻市立鹿妻小学校を拠点に避難所での医療活動を中心に活動
 ・医師2名、看護師2名、薬剤師1名
 ・期間 2011.3.23～2011.3.27

5月1日より豊岡病院の医療情報システムが更新されます

* 予約以外の再診患者様の受付方法が変わります

- ・新システム： 再来受付機で番号札を受け取り、各診察受付での再診手続きとなります
 (従前システム： 再来受付機で受診手続き)

システムの変更後、しばらくの間は、診察の待ち時間が長くなるなど、ご不便をおかけする場合がありますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

豊岡病院に「玄さん」がお見舞いにやってきました

2月15日、豊岡市のマスコット「玄武岩の玄さん」が、豊岡病院に入院する子供たちのお見舞いにやって来ました。突然の人気者の登場に、子供や女性が笑顔で駆け寄ったり、持っていたカメラで撮影するなど、院内は楽しげな雰囲気に包まれました。

このお見舞いは、今年の正月に、市民から「闘病中の子供たちに夢と希望を与えてほしい」という年賀状が玄さんに届けられたことがきっかけに実現しました。

玄さんは小児科外来や小児病棟を訪問し、「病気に負けないで」と子供たちにプレゼントを手渡し、励まして回りました。





医師の異動のお知らせ

H23.2.2~H23.4.1

新任医師



豊岡 総合診療科
兼呼吸器科
部長 家城 隆次



豊岡 心臓血管外科
部長 田中 仁



豊岡 小児科
医長 藤田 秀樹



豊岡 形成外科
医長 金城 紅子



豊岡 麻酔科
医長 高野 貴司



豊岡 精神科
医長 宮城 崇史



豊岡 救急集中治療科
兼伯耆救命救急センター
医員 長嶺 育弘



豊岡 整形外科
医員 相模 昭嘉



豊岡 救急集中治療科
兼伯耆救命救急センター
医員 池田 武史



豊岡 産婦人科
医員 富田 裕之



豊岡 麻酔科
医員 清水 大介



豊岡 外科
医員 坂口 正純



豊岡 総合診療科
医員 浦瀬 靖代



豊岡 総合診療科
医員 小佐見 光樹



豊岡 総合診療科
医員 金田 好弘



豊岡 脳神経外科
医員 山本 祐輔



豊岡 救急集中治療科
兼伯耆救命救急センター
医員 前山 博輝



豊岡 小児科
医員 世戸 博之



豊岡 循環器科
医員 松添 弘樹



豊岡 泌尿器科
医員 熱田 雄



豊岡 消化器科
医員 野村 雄大



豊岡 産婦人科
医員 橋本 佳奈



豊岡 形成外科
医員 野口 晴加



豊岡 皮膚科
医員 金田 真実



日高 眼科
医員 飯田 悠人



和田山 整形外科
医員 桐月 伸輔

豊岡 歯科口腔外科
医長 青井 陽子

退職医師

- ・豊岡病院 泌尿器科 病院長 竹内 秀雄
- ・豊岡病院 心臓血管外科 部長 佐藤 友昭
- ・豊岡病院 産婦人科 医長 岡田由貴子
- ・豊岡病院 循環器科 医長 中村 浩彰
- ・豊岡病院 皮膚科 医員 山口 綾
- ・豊岡病院 麻酔科 医員 山田 恵子
- ・日高医療センター 総合診療科 医員 加藤知恵子
- ・豊岡病院 精神科 石原 知代
- ・豊岡病院 脳神経外科 塩見 亮司

- ・豊岡病院 麻酔科 部長 五嶋 良吉
- ・豊岡病院 泌尿器科 医長 澤崎 晴武
- ・豊岡病院 小児科 医長 木寺えり子
- ・豊岡病院 形成外科 医員 富田 浩一
- ・豊岡病院 総合診療科 医員 北尾 章人
- ・日高医療センター 眼科 医員 石原 健司
- ・和田山医療センター 整形外科 医員 寺嶋 良樹
- ・豊岡病院 小児科 香田 翼
- ・豊岡病院 歯科口腔外科 磯部 悠

◇発行 公立豊岡病院組合 ◇〒668-8501 豊岡市戸牧1094 ◇TEL 0796-22-6111(内線2111)

◇URL : <http://www.toyookahp-kumiai.or.jp> ◇E-mail : kikaku@toyookahp-kumiai.or.jp

●本紙掲載の写真・イラスト・記事の無断使用・無断転載は禁じます。